2020

第7回福岡県

木造・木質化建築賞

総評

福岡県木造･木質化建築賞
選考委員会
委員長　藤本　登留

毎年のように気象災害が報じられ、地球環境や森林環境の保全の面から木造・木質化の推進の必要性を感じています。2020年には大雨による球磨川の氾濫で甚大な被害が発生しました。さらにこのような自然災害に加え、新型コロナウイルスによる感染症で日常生活が劇的に変わるとは思ってもみないことでした。特に都市部の人口密集地では感染拡大が進み、緊急事態宣言下で仕事や生活上の活動自粛が強いられています。不幸にも感染された方は隔離生活となり、重症化しても家族に会えないなど、これまで想像もしなかったことです。木造・木質化施設を積極的に準備してきた環境配慮型の東京オリンピックも延期になり、いまだに開催が不安視されている状況です。欧州などのロックダウンほどではありませんが、日本でも巣ごもり生活が増え、特に都市部では屋内環境の重要性が増しています。住居や職場といった長時間過ごす建築物をより良い居住環境にしていく必要性を改めて感じているところです。

様々な活動自粛のなか、建築賞の選考ができるか心配でしたが、建築主や建築関係の皆様の積極的なご応募のおかげで、今年度も福岡県木造・木質化建築賞の選考を実施することができました。応募いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

今回の第７回福岡県木造・木質化建築賞では35 点の応募があり、その内、戸建て住宅が10 点、保育施設が７点、福祉施設４点、庁舎２点、その他事務所、店舗、宿泊施設、遊園施設、公衆トイレ、大学実験施設など多様な建築が見られました。この中で庁舎や事務所では非木造が多く、国の施策である中高層大規模建築の木造化が進展すれば、今後、庁舎・事務所でも木造施設が増えていくものと期待しています。

第１次選考は、６名の選考委員によって2020年11月26日に書類審査を実施し、協議および投票によって９点を最終選考の対象建築物に選出しました。

その後、最終選考を12月24日、25日の２日間にかけて実施しました。対象建築物の９点を現地審査のうえ、最終選考委員会で協議および投票によって木造の部、木質化の部の大賞各１点、優秀賞各２点のほか、特別賞２点、奨励賞１点の全９点が受賞建築物に決定しました。木造の部の大賞は、福岡市大濠公園内の開放的な飲食施設で、CLTを接合部材に応用したユニークな２階建て伝統工法建築物です。木質化の部の大賞は、内外装の全面で木の質感を体感できるデザインで、環境に配慮したFSCプロジェクト全体認証を取得した木造ショールーム施設です。これらを含め、全９点の素晴らしい受賞建築物をご紹介いたします。最後に、審査にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

福岡県木造･木質化建築賞　概要

表彰の目的

県では、充実した森林資源を有効に活用し、森林の世代サイクルの回復を図るため、住宅や公共建築物等における木材の利用や、県有施設の木造・木質化を積極的に推進しています。

そのような中、県産木材の需要拡大の推進をより一層図るため、県民の皆さんや建築関係の方々に対し、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を紹介し普及啓発することを目的に、本賞を実施しています。

賞の対象

県産木材の需要拡大を図るため、公共建築物や店舗・住宅等の木造・木質化を推進するにあたり、モデルとなる優れた建築物

賞の部門

- 木造の部（大賞･優秀賞）
- 木質化の部（大賞･優秀賞）
- 特別賞　●奨励賞

主な選考基準

- 国産材を創意工夫により活用し、林業振興に寄与しているもの
- 木材の特徴や良さを活かし、建築物の木造･木質化に波及効果があるもの

選考委員

役　職	氏　名	職　名
委員長	藤本 登留	九州大学農学研究院准教授
副委員長	大森 洋子	久留米工業大学 建築･設備工学科教授
委　員	工藤　卓	元近畿大学産業理工学部 建築デザイン学科教授
委　員	松尾 智昭	（一社）福岡県木材組合連合会 専務理事
委　員	岩尾　款	西日本新聞社報道センター政経部 編集委員
委　員	古賀　央	福岡県農林水産部林業振興課長

木造の部 大賞

大濠テラス～八女茶と日本庭園と。～

所在地：福岡市中央区

写真撮影：鳥村鋼一

写真撮影：鳥村鋼一

写真撮影：鳥村鋼一

建　　築　　主｜クレアプランニング株式会社 代表取締役 中田泰平
設　　計　　者｜株式会社リズムデザイン一級建築士事務所 代表取締役 井手健一郎
施　　工　　者｜株式会社百田工務店 代表取締役社長 百田善太郎
建築物の用途｜飲食店･貸衣装屋
構造･規模(階数)｜木造･地上２階
延　床　面　積｜199.88㎡

設計趣旨

"1 Material, 1 Tradition, 1 Idea."
"ひとつの材料で、ひとつの伝統的技術で、ひとつのアイデアで。"をコンセプトとした。
①1-Material　躯体フレームに使用する材料は、接合部も含めて『木材』のみ
②1-Tradition　躯体フレームの組み立てに必要な道具は『木槌(きづち)』のみ
③1-Idea　電動工具も使わずに『木栓を打ち込む』という単純な行為のみ
CLTと製材を組み合わせて利用し、建築の細部を簡略してつくることで、景観に対して開かれた、簡素で開放的な建築を目指した。
また、CLTを用いた木材のみの剛接合部材を開発し、木槌さえあれば、電動工具を使用せず、誰もが自分の力で組み立て可能な構造体を実現した。
外壁のヒノキ材（下見貼り）の表面にはグレーの保護塗料を使用し、経年変化で時間をかけて木材が退色し、時間とともに建物全体が馴染んでいくように考えた。

講　評

都心の憩いの場となっている大濠公園で、池の外周の緑や隣接する日本庭園と調和した木造軸組み2階建て飲食・物販施設です。店内の長尺カウンター前の大きなガラス扉を開ければ、まさに開放的なテラスとなります。施設内外から見える県産スギの構造軸材が印象的で、カウンターや大型テーブル天板は大面積の面材として適しているスギCLTを使うなど、シンプルな中にぬくもりを感じる癒しの施設となっています。軸組みの接合は、釘や金具を使わず、CLTで作った接合部材を木ダボで繋ぐ独特な技術を考案し、組み立て段階で伝統大工ではなくても組むことを可能にしています。大型厚板面材の変形防止、さらにダボ接合の割裂防止が必要な材料として理にかなったCLTが効果的に使われています。構造用面材としての面内せん断性能だけでなく、CLTのその他特性を活かした作品であり、CLTの新たな用途を開拓した設計であると評価できます。

木質化の部 大賞

MARUHON FUKUOKA

所在地：福岡市中央区

写真撮影：Akito Goto

建　　築　　主｜株式会社マルホン 代表取締役社長 加藤拓
設　　計　　者｜香取建築デザイン事務所 代表 香取武則
施　　工　　者｜黒木建設株式会社 福岡支店 取締役支店長 石井道眞
建築物の用途｜事務所・ショールーム
構造・規模（階数）｜木造・地上２階
延　床　面　積｜83.34㎡

設計趣旨

木質建材を扱う企業「マルホン」のオフィス兼ショールームである。豊かな自然が残る20坪程の小さな敷地に、ワークスペース、400点余りの商品ストック、プレゼンテーションスペースが求められた。これらを効率的に集約させるべく構造体が什器となり、建築・家具・商品が三位一体の設計とした。それぞれの適切なモデュールを導き出し、煩雑になりがちな空間に統一感を与え、多種多様な表情や質感の商品と調和させた。敷地の角を和らげるオーバル型プランの半地下から２層吹抜けの空間は、「木」の魅力を最大限に体感出来るように、開口部を極力抑えて木材に包み込まれる様な感覚を体験できる。「構造体＝仕上げ」になる為、綿密な施工計画と高い精度管理を必要とし、職人の技術と経験がこれらを支える重要な要件となった。

エイジングと共に街並みに調和することを意図して外壁に用いた天竜杉は、素材本来の魅力を引出す草木染を施し、建物外形をシームレスに繋げながら陰影を強調させる形状としている。

また、このプロジェクトは「マルホン」の長年に渡る取組を具現化する目的から、国内で数例しかないFSC®プロジェクト全体認証を取得した。

講　評

木質建材を扱う会社のショールームとして、外観も内観も木の魅力を感じることができ、さらに独特のフォルムをもつ木造建築です。湾曲した外壁面には特殊な断面を持つ不等厚板を並べ、陰影を持つ大面積外壁を形作っています。雨や光にさらされるこのスギ外壁は、耐久性を付与するといわれる染料で処理されています。このような新たな処理に対する材色のエイジングや耐久性の効果を長期にわたって調べる、木質建材企業独自の試みも兼ねています。比較的狭いスペースに大量の木質建材サンプルを展示するため、吹き抜け屋内の外周面全面に作り付けの木質棚を設置し、木に囲まれた圧巻の空間を創造しています。屋内に足を踏み入れた瞬間に木質の魅力が体感できます。

さらに注目すべきは、日本で数少ないＦＳＣプロジェクト全体認証を取得した施設で、環境に配慮した木質材料であることを明確化した点にあります。世界的に環境に配慮した森林資源の活用が地球環境の面からも必要とされる中、一つの手本となる取り組みであると評価できます。

写真撮影：Hiroshi Mizusaki

写真撮影：Akito Goto

木造の部 優秀賞

東郷の家

所在地：宗像市

写真撮影：石井紀久

建　　築　　主｜個人
設　　計　　者｜株式会社松山建築設計室 代表取締役 松山将勝
施　　工　　者｜株式会社のあ建築設計 代表取締役 坂上功至
建築物の用途｜住宅
構造・規模（階数）｜木造一部鉄骨造・地上１階
延　床　面　積｜139.89㎡

設計趣旨

丘と平地の境目に建つ若い夫婦と子供のための住宅。

細長い家の屋根は南の日射を考慮し、北から南に片流れの屋根をかけ、屋根荷重を受ける登り梁（45×300）は、家の端から端までを455ピッチの等間隔で連続させ、北側の面戸はガラス面戸とし、落ち着いた採光を取り込むことを目的としている。

生活道路側のアプローチから玄関に入ると薄暗い廊下を抜け、ダイニング・キッチン・リビング、東の住宅群に距離を取るように子供室を配置した。また、南面の大きな開口部は、ダイニング・キッチンから風景を望む窓として捉え、料理教室を開く予定の奥様の仕事場として人を迎え入れる場を計画している。

高さ3.5mの半屋外デッキは、椅子に座ると傾斜地と隣地を背に、町並みと丘陵住宅地と家の間のような場所を作り、デッキ先端や下段に降りる階段は家の外で町並みを感じる事ができる。

下段には上段からの屋根が続き、4.5mの高さから家の下に日影を作る。その場所はご主人の農具セット置場とDIYスペース、その先は生活道路に繋がっていく。

木造の部 優秀賞

篠栗の家

所在地：糟屋郡篠栗町

写真撮影：イクマサトシ

建　　築　　主｜個人
設　　計　　者｜株式会社PLAM/原田建築計画事務所
　　代表取締役 原田達浩
施　　工　　者｜株式会社イクスワークス 取締役 内山琢也
建築物の用途｜住宅
構造・規模（階数）｜木造・地上２階
延　床　面　積｜121.82㎡

設計趣旨

篠栗町中心部の住宅街と米ノ山の裾野の森との境界部に位置し、自然豊かな景色が広がる場所に建つ住宅の計画である。

敷地内の一部が、土砂災害警戒区域の指定を受け、それをかわしつつ、南側の眺望を最大限取り入れることができるよう角度を振り建物の配置を決定した。そのうえで、敷地形状や北側斜線制限といった法的要素に沿って、変形を加えた切妻の家型は、この敷地にあるべき素直なカタチになったと考える。

南側接道面は開放的な前庭兼駐車場、北側にプライベートな裏庭を配し、玄関前の半屋外の通り土間がふたつの庭を緩やかに繋ぐ。

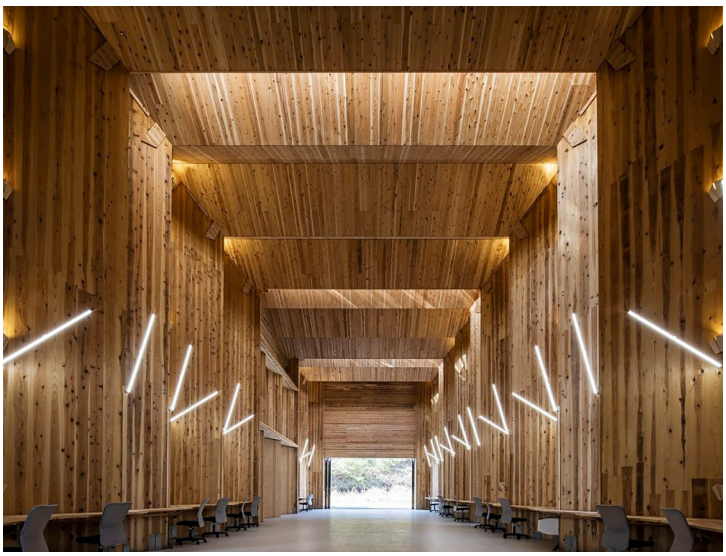
２階のリビング・ダイニングには、眺望を最大限引き込むための大きな開口部を設け、そこから取り入れる風景をインテリアの中心と捉え、建築の骨格に従った形状の空間をシンプルに仕上げた。

隣地にたたずむクスの大木、敷地の眼下に望む梅畑、米ノ山を望む伸びやかな眺望といった豊かな風景のなかで、自然素材の外壁に包まれた素直な形の家、庭のランドスケープは、時間の経過と共にさらに風景に溶け込んでいくであろう。

木質化の部 優秀賞

メルディア高機能木材研究所

所在地：北九州市若松区



写真撮影：大森今日子

建　　築　　主｜株式会社三栄建築設計 代表取締役 小池信三
公立大学法人北九州市立大学 国際環境工学部
建築デザイン学科 教授 福田展淳

設　　計　　者｜株式会社ジオクラスター 代表取締役 渡利和之
公立大学法人北九州市立大学 国際環境工学部 建築デザイン学科
教授 福田展淳、准教授 藤田慎之輔、松本匡弘、谷山達明、遠竹宏貴

施　　工　　者｜株式会社首藤工務店 代表取締役 首藤善雄

建築物の用途｜大学

構造・規模（階数）｜木造（CLTパネル工法）・地上１階

延　床　面　積｜496.70㎡

設計趣旨

壁と屋根の全てをCLT折版構造で造った建築としては、日本初の試みであり、この折版構造が外観と内部空間に独特の印象を与えている。

敷地は、北九州市立大学キャンパス南側の高幅員道路面から３ｍ程度高くなった丘の上である。用途は、高機能木材の製造実験を行う研究施設で、中央の半屋外スペースを挟み南側と北側に幅8.2ｍ、高さ8.5ｍ長さ23.7ｍ及び21.2ｍの研究棟を配置している。半屋外スペースには、集成材を製造する圧縮機、高温高圧容器を設置し、両側の研究室で、研究活動を行う計画である。

CLTは厚みを厚くすればするほど強度は増すが材料コストも増加するため、厚さをいかに薄くできるかが、この建物の設計上の大きなテーマとなった。幸い、精緻な構造解析により、厚さ僅か90ｍｍのＣＬＴで、天井高約8m、幅８ｍの一室空間を実現できた。さらに、歩留まりを考慮し部材寸法を決めたことで、CLTの立米単価は10.3万円となった。断熱を担う外皮と密実な木材であるCLTによって、高い断熱性能が得られ、通常のオフィスの３倍の天井高でありながら、暖房負荷は約半分となり優れた省エネ性能が達成できた。

木質化の部 優秀賞

嘉麻市庁舎

所在地：嘉麻市

写真撮影：八代写真事務所

建　　築　　主｜嘉麻市

設　　計　　者｜株式会社久米設計 九州支社 支社長 髙﨑強

施　　工　　者｜株式会社淺沼組 九州支店 執行役員支店長 江﨑彰夫

建築物の用途｜市庁舎

構造・規模（階数）｜鉄筋コンクリート造一部鉄骨造・地上６階

延　床　面　積｜9,652.99㎡

設計趣旨

市庁舎の中で議場エリアは通常市民が近寄りづらい印象があるが、議場を嘉麻市産杉の「木のボリューム」として可視化させ、「地域のシンボル」・「合併のシンボル」としてデザインすることで、市民の愛着を育み、地域に根差した市庁舎の核の形成に繋げた。

市庁舎機能の中で最大容積である議場をボリュームとして捉え、それを中央に浮遊させるという一つの操作により、コンパクトな庁舎の中に様々な秩序と空間の抑揚を生み出した。これは市庁舎建築の新しい試みである。

嘉麻市は後継者不足や木材価格の低迷による林業衰退の問題に直面しており、将来的な改善の必要性に迫られている。豊かな森づくりは、嘉麻市の原点である遠賀川の水を育むことにもつながる。

市庁舎の中心に据えた「木のボリューム」には、市の将来を担う若い世代に向けた、「地域の木に興味を持ってほしい」というポジティブなメッセージも込められている。

多くの市民が集い、まちづくりの拠点となる市庁舎だからこそできる、「木」の表現と考えている。

特 別 賞

写真撮影：雨宮秀也

香住ケ丘の家　所在地：福岡市東区

建　築　主｜個人
設　計　者｜でんホーム株式会社 代表取締役社長 藤本香織
施　工　者｜でんホーム株式会社
建築物の用途｜住宅
構造・規模（階数）｜木造・地上２階
延 床 面 積｜183.00㎡

設計趣旨

通常一般建築はしない、地元の宮大工集団に三顧の礼で建築を依頼し、最新の断熱材等を勉強してもらいながら建築工事を行った。地元福岡の製材所を訪ね、軒下空間など現しになる材は杉の天然乾燥材（香りや艶がのこり、超長期的には長く持つ）、柱は芯去り材（美しい柾目が出る）を使うなど、木の使い方にも協同により工夫を凝らした。柱の外と内に断熱材を入れるW断熱。エアコンの冷媒を利用した副射冷暖房システムにより大空間でも快適な環境を実現させた。これにより建替え前の光熱費（ガス含めて）６～７万/月だったものを半分以下の1.5万/月に抑えている。

軒は日光を遮り、冬の陽の光を入れる深い軒を採用。縁側は国産の日本杉を使用して、日本家屋を踏襲しており、日が暮れて、灯りがともるとまた別の表情になる。庭は日本を感じられる落ち着ける空間を造るようにした。

写真撮影：林口哲也

旧八女郡役所　所在地：八女市

建　築　主｜特定非営利活動法人「八女空き家再生スイッチ」理事長 高橋康太郎
設　計　者｜STUDIO RAKKORA ARCHITECTS 木村日出夫、木村淳子
施　工　者｜中島建設 代表 中島正隆、三宅左官 代表 三宅洋児、関内家具工房 代表 関内潔
建築物の用途｜店舗・カフェ・イベントスペース
構造・規模（階数）｜木造・地上２階
延 床 面 積｜591.72㎡

設計趣旨

旧八女郡役所は、重要伝統的建造物群保存地区である八女福島の古い町並みの中にある大きな木造の建物である。長く空き家となっていた建物を改修し、八女福島の景観と文化を守り継承していくため、既存建物の保全と再活用を主な目的としている。改修手法については、既存建物の持つ木造建築の普遍的な美しさや、ダイナミックな木架構の魅力を引き出すように、新しい素材と古い素材の対比や、伝統建築と地域文化の魅力的な融合をコンセプトとした。また、複合的なプログラムと、変化に対応できる多様性のある空間が求められたため、長い時間を重ねた既存の建物に、新しい部材や新しい機能が付加しながら、新旧の関係性を生み出すことで、常に変化していくような建築をつくり出すことを目指した。使用する材料は、地元産の木材として、天然乾燥の八女杉を積極的に活用している。

奨 励 賞

写真撮影：吉田誠
所在地：嘉麻市

認定こども園　いなつきれんげ幼稚園

建　築　主｜学校法人安楽寺学園 理事長 髙城無憂、理事 髙城連華
設　計　者｜株式会社 本間總合建築 代表取締役 本間充一、五十嵐一博
施　工　者｜株式会社中村建設 代表取締役 中村巧
建築物の用途｜認定こども園（幼稚園型）
構造・規模（階数）｜木造（CLTパネル工法＋軸組）・地上２階
延 床 面 積｜896.18㎡

設計趣旨

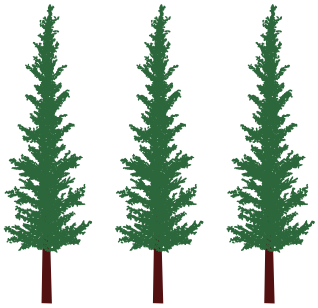
木が溢れる大きな内部空間に、それを覆う大きな屋根を架けている。大きな屋根を支えるのは、耐震壁として配置したCLT（直行集成板）パネルと1,820mmピッチで長辺方向に架け渡した梁。CLTパネルと梁、屋根下地の合板は内部にそのまま現しとした。

大きな屋根は高い天井の空間と、その下の小さな木造の二重構造になっている。天井と屋根裏は、厨房等の設備を収めるスペースとし、大容量の換気設備を設け、大空間全体の空気の流れや温熱環境にも配慮し、室内環境を制御する役割を果たす。

園庭側はCLTパネルと支柱により屋根を持ち出し、深い軒下空間をつくり、雨を防ぎ、日射を制御する機能を持たせた。

これまでの建築賞

		建築物名称	所在地	建物の用途
第１回	大賞（木造の部）	東長寺　五重塔	福岡市	寺院
	大賞（木質化の部）	九州芸文館・アネックス２	筑後市	陶芸工房
第２回	大賞（木造の部）	森のおうち保育園	福岡市	保育園
	大賞（木質化の部）	嘉麻市立嘉穂小学校	嘉麻市	小学校
第３回	大賞（木造の部）	平尾保育園	福岡市	保育園
	大賞（木質化の部）	福岡女子大学図書館棟	福岡市	図書館
第４回	大賞（木造の部）	聖恵ビハーラ	古賀市	医療施設
	大賞（木質化の部）	八女の家	筑後市	住宅
第５回	大賞（木造の部）	里山ながや・星野川	八女市	賃貸住宅
	大賞（木質化の部）	久山町立けやきの森幼稚園	久山町	幼稚園
第６回	大賞（木造の部）	門司港駅	北九州市門司区	駅舎等
	大賞（木質化の部）	五ケ山クロスベース	那珂川市	店舗・飲食店・展望デッキ



2020　第7回福岡県木造・木質化建築賞

令和3年3月

福岡県農林水産部林業振興課木材流通係
TEL092-643-3549　FAX092-643-3541
https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/mokuzou7panfu.html

この冊子の用紙は、福岡県産の間伐材を使用しています。

福岡県行政資料	
分類記号 PF	所属コード 4701002
登録年度 02	登録番号 0004